

ときわの風

WIND OF TOKIWA

E-mail dosokai@tokiwa.ac.jp

URL http://www.tokiwa.ac.jp/~dosokai/

同窓会と大学の更なる連携を —学長就任の挨拶に代えて—

富田 敬子

桜の花がほころぶ良き日、常磐大学は、本年度、857名の新入生をキャンパスに迎えました。ここ数年では、最多の入学人数です。新たに学長を拜任した私の仕事は、その日、入学式で式辞を述べることから始まりました。真新しいスーツに身をまとった新入生の眼差しはとても真摯で、引き締まった表情には「大学」という新しい経験への挑戦に対する意欲が溢れていました。大切な青春時代のひとときを本学で過ごすことを選び、学びを通して更なる成長を目指そうとする学生たちです。その思いにしっかりと応えなければと、本学に託された期待と責任に、私自身も、肅然とした思いがしました。

入学式式辞では、幾つか、私なりに新入生への思いを伝えたいと考えました。その一つとして、大学とは、智を育むところだけでなく、一生の支えとなるような人間関係を築くことが出来る場所であることを強調しました。同級生との「横の絆」に加えて、教師、同窓の先輩たちと紡ぐ「縦の絆」が、人生の大切な財産となることを訴えたかったのです。とりわけ、大学とは、在学時代だけの関わり合いだけでなく、卒業生の集まりである同窓会を通じて、卒業後もいろいろな側面で関わり合いを持ち続けることが出来る存在であることに気付いて欲しいと思いました。とは言え、私自身は、長年、同窓会の活動に格別、注意を払うことなく過ごしていたのが正直のところでした。大学の同窓会というものは、個人で行動するよりも何かの組織に属していることを重んじがちな日本固有のものであると信じていました。また、特定の有名私立大学が擁する、卒業生の「お友達クラブ」のようなもの、といった浅はかな認識しかありませんでした。しかし、米国に留学することによって、私の同窓会に関する理解は大きく変わりました。



私は、米国東海岸にあるジョージタウン大学、そしてフォードム大学という二つの大学の大学院で勉強したのですが、いずれの大学でも同窓会の存在はとても大きなものでした。同窓会の活動は、会員の親睦を図ることはもとより、在学生への奨学金授与、同窓会員が中心となったインターシッ

プの提供や就職支援など、じつに多岐にわたります。同窓会員による、大学のインフラへの投資も惜しみなく、キャンパスでは、卒業生の名を冠した建物や機材などがあちこちに留まります。否が応でも、卒業生の活躍、貢献を意識せずにはいられません。大学側も、同窓会を重要なステークホルダーとして認識し、永続的なパートナーシップに基づいて、積極的に情報を共有し、共同事業の機会を求めています。こうした密接な連携が、結果的に、互いの発展と評価の向上に寄与しているように思えました。

常磐大学同窓会におかれましては、1987年発足と言う短い歴史にもかかわらず、13,200人を超える会員を擁するまでに発展してきたことは称賛すべきことです。また、本学の卒業生が数多くキャンパスで働いていること、それらの皆さんが中心になって同窓会活動を積極的に盛り上げていることを知り、大変うれしく思っています。「ときわ祭」への援助、課外活動に対する奨励金の給付など、同窓会が在学生に様々な支援の手を差し伸べて下さっていることに厚く御礼申し上げます。同時に、卒業生の心のよりどころとしての常磐大学同窓会の、益々の発展を祈念してやみません。常磐大学は、今後とも同窓会との絆をより堅固なものとし、共に一層の発展を遂げることをここに誓い、学長就任の挨拶に代えさせていただきます。これから共に、更に活力あふれる常磐大学を一緒に創り上げていきたいと心から願っています。

富田 敬子 学長 プロフィール



専門：社会学、人口学
学歴：東京女子大学文理学部社会学科卒業
米国Georgetown University 大学院
人口学修士課程修了
米国Fordham University 大学院
社会学博士課程修了
職歴：1988年、ニューヨークの国連経済社会分析局入局。バンコクの国連アジア太平洋地域経済社会委員会勤務を経て、2009年よりニューヨークの国連経済社会局統計部次長を務めた。在職中、タイマヒドン大学人口社会研究所客員研究員、ボスニア・ヘルツェゴビナ国およびミャンマー国国勢調査の国際諮問委員会委員を兼任。現在も、国連国際人口移動統計専門家グループのメンバーを務める。2019年4月より現職。

見和グラウンドが人工芝化されました



グラウンド



田村さん



依田先生

き詰められたグラウンドとなっており、95m×51mのサッカー練習用コート1面の中に、51m×45mのサッカー練習用コートが2面取れるようにラインを引いています。また、夏の暑さ対策として散水設備も設置されました。サッカー部主将の田村溪介さん(人間科学部教育学科中等教育コース4年)から「グラウンドが土から人工芝に変わったことで技術面の向上が期待でき、雨の日も練習ができるようになるので、今まで以上に練習を積み重ねて北関東リーグから関東リーグへ昇格できるようにがんばりたい。」との抱負をいただき、サッカー部の部長である依田泉先生(人間科学部教育学科教授)からは「人工芝になり、土のグラウンドの時のようにボールの跳ね方を気にせずにプレーができ視野が広がるので、パスなどの技術をより身に付けるなど、洗練されたサッカーを目指して活躍してほしい。」との激励の言葉をいただきました。この快適な人工芝に生まれ変わったグラウンドで練習に励み、北関東リーグでの活躍が期待されます。

2018年度

体育会&文化連合活動報告

■硬式野球部

○関甲新学生野球秋季リーグ

(C部中2部)

- 常盤大学 ○ 9-2 ×埼玉大学
- 常盤大学 ○ 15-8 ×埼玉大学
- 常盤大学 × 0-1 ○松本大学
- 常盤大学 × 1-3 ○松本大学
- 常盤大学 ○ 4-2 ×新潟大学
- 常盤大学 ○ 7-0 ×新潟大学
- 常盤大学 ○ 5-1 ×茨城大学
- 常盤大学 ○ 9-2 ×茨城大学
- 常盤大学 × 0-12 ○平成国際大学
- 常盤大学 × 1-5 ○平成国際大学

■バドミントン部

(男子)

○2018年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦6部

2戦0勝2敗 3位 6部残留

(女子)

○2018年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦4部

5戦2勝3敗 4位 4部残留

○第67回関東学生剣道優勝大会

(男子団体) 1回戦

常盤大学 ○ 2-1 ×高崎健康福祉大学

2回戦

常盤大学 × 0-5 ○東洋大学

○第44回関東女子学生剣道優勝大会

(女子団体) 1回戦

常盤大学 ○ 4-2 ×宇都宮大学

○北関東大学サッカーリーグ(後期)

常盤大学 ○ 3-1 ×関東学院大学

常盤大学 × 1-6 ○上武大学

常盤大学 ○ 4-2 ×宇都宮大学

○北関東大学サッカーリーグ(前期)

常盤大学 ○ 3-1 ×関東学院大学

常盤大学 × 1-6 ○上武大学

常盤大学 ○ 4-2 ×宇都宮大学

○第13回全日本学生剣道オープン大会

(2段以下の部) 長谷川 ベスト10

(3段以上の部) 原田 トナリ下進

(その他) リーグ敗退

■サッカー部

常盤大学 ○ 2-1 ×白鷲大学

2回戦

常盤大学 ○ 3-1 ×群馬大学

3回戦

常盤大学 × 0-2 ○拓殖大学

敗者復活戦

常盤大学 × 0-2 ○東京家政大学

○第64回関東学生剣道新人戦大会

(男子団体) 1回戦

常盤大学 × 2-4 ○宇都宮大学

○第19回関東女子学生剣道新人戦大会

(女子団体)

常盤大学 × 1-2 ○清和大学

○第13回全日本学生剣道オープン大会

(2段以下の部) 長谷川 ベスト10

(3段以上の部) 原田 トナリ下進

(その他) リーグ敗退

■ゴルフ部

常盤大学 × 0-9 ○作新学院大学

常盤大学 × 1-2 ○白鷲大学

常盤大学 ○ 5-12 ×茨城大学

常盤大学 ○ 4-11 ×群馬大学

常盤大学 ○ 2-10 ×高崎経済大学

常盤大学 × 1-3 ○足利大学

5勝4敗 7位

○平成30年度関東女子大学秋季Dフ

ロック対抗戦

優勝

○第65回朝日杯争奪日本学生ゴルフ

選手権関東地区予選会

53位タイ 渡辺真悟

○第21回朝日杯争奪日本女子学生ゴルフ

選手権関東地区予選会

28位タイ 宮本夏美

59位タイ 須藤麗

95位タイ 郡司桃果

○平成30年度関東学生ゴルフ連盟女子

10月月例会

1位 郡司桃果

○第58回茨城県吹奏楽コンクール

(大学の部)

銀賞・県代表

○第24回関東吹奏楽コンクール

(大学の部)

銀賞

■吹奏楽団

11位タイ 須藤麗

15位タイ 郡司桃果

○第54回会長杯争奪関東女子ゴルフ

選手権

13位タイ 渡辺真悟

○平成30年度関東学生ゴルフ連盟女子

11月月例会

6位 須藤麗

○第56回会長杯争奪関東学生ゴルフ

選手権

13位タイ 渡辺真悟

■掲載文募集

同窓会事務局では、会報「ときわの風」に掲載する会員の皆さまからの投稿を募集しています。日々の雑感・近況報告などをお寄せください。(編集の都合上8000字程度でお願いします。)

なお、掲載された方には、薄謝進呈いたします。

〒310-0505 水戸市見和1-4300-1

常盤大学内常盤大学同窓会事務局宛

または dosokai@tokiwa.ac.jp

http://www.tokiwa.ac.jp/~dosokai

メール: dosokai@tokiwa.ac.jp

Fax: 026-263-1907-8

郵送: 〒310-0505

水戸市見和1-4300-1

常盤大学内常盤大学同窓会事務局宛

異動情報の更新にご協力ください

ご住所やご氏名の変更等により、本会からの郵便物が返送されるケースが増えています。ご住所やご氏名に変更がありましたら、左記までご連絡ください。

*同窓会のホームページからも受け付けております。

http://www.tokiwa.ac.jp/~dosokai

メール: dosokai@tokiwa.ac.jp

Fax: 026-263-1907-8

郵送: 〒310-0505

2018年度常盤大学同窓会 課外活動奨励金給付団体決定



2018年度は学生プロジェクト奨励金を5団体に、スポーツ文化活動奨励金を2団体に給付いたしました。

学生プロジェクト奨励金の奨励金授与式は2018年8月2日に行われ、池田正則会長から給付団体の代表学生に奨励金が授与されました。スポーツ文化活動奨励金はの奨励金授与式は2019年5月に行われます。

なお、2019年度同窓会総会後に今回の給付団体の学生たちによる活動内容および成果に関する報告会を開催します。



奨励金受給式



団体名	活動の内容	給付金額
EMF4	ひたちなか市那珂浜地区で毎年8月に開催されるアートイベント「みなとメディアミュージアム」において、企画立案やアーティストの制作サポート・開催中の作品管理・来客対応などの運営サポートを行い、30名近くの学生がボランティアスタッフとして参加しました。また、同地区で毎月第3土曜日に開催される「ドゥナイトマーケット」での「TOKIWAまちなかラボ」プロジェクトでワークショップを実施しました。	200,000円
TSSボランティア トリコロール TRICOLOR	「いわき(岩手×常盤)プロジェクト」として、東日本大震災の被災地である岩手県沿岸部の課題解決に向け、「学ぶ→見る→実施する→伝える→振り返る」といった段階を踏みながら「できることを、できるときに、出来るだけ」をテーマに活動しました。10月のときわ祭においては、写真展や防災・減災カレラレッジといった「復興支援企画」を実施しました。また、地域支援活動として、生活困窮世帯の親子を対象とした「親子交流支援プロジェクト」や「こども元気プロジェクト」などを実施いたしました。本活動は、継続したボランティア活動として次年度以降も予定されています。	200,000円
TSS支援チーム	「わくわくする学生生活を創る」ことを目的とし、学生生活を充実させるための情報や学生・団体等の日常的な活動情報を発信するため、2017年度より「フリーペーパー『ぐるり』」の発行(500部ずつ2回)を行ってきました。今年度は、内容はじめデザインなどよりクオリティーの高いvol.3, vol.4を制作しました。「ぐるり」は、学生自らが企画・編集・発行するフリーペーパーとして、今後も継続していく予定です。	200,000円
TSS国際センター サポーター	留学生の学習・生活のサポートや国際交流パーティーなど、本学学生と留学生を繋げるためのイベントを実施いたしました。2018年度は「留学生×常盤大生の目線から地域の魅力を発見発信プロジェクト」を実施し、地域の魅力をHPやSNSで発信し、外国人旅行者の茨城県訪問につなぐための企画を実施いたしました。また、国際交流に関心を持つ学生の増加のために、広報誌「T-tips」を充実させ、常盤の国際交流活動を学生の視点で発信しました。	100,000円
松原哲哉ゼミナール	身近な地域の環境改善を目標に、借入園公園内の自然環境の保全とホテル再生を行う「常盤の森再生プロジェクト」と、3か所の身近な耕作放棄地を活用し、その取壊物で地域活性を図る「常盤大学フォームプロジェクト」を、松原ゼミの学生が中心となり、地域と連携協力しながら実施しました。更にこれら2つの実践活動を、エコプロ2018をはじめとする各地の環境展や環境コンペ、ゼミホームページ等で発信しました。	200,000円
常盤大学ゴルフ部	平成30年度春季関東女子大学対抗ゴルフカップおよび平成30年度関東女子大学秋季Dブロック対抗戦において団体優勝を果たしました。	200,000円
常盤大学吹奏楽団	当吹奏楽団は2018年8月12日に行われた茨城県吹奏楽コンクール大学の部において、3年連続の県代表となり、9月23日(日)に栃木県宇都宮市文化会館で開催された第24回関東吹奏楽コンクール大学の部に出場し2年連続で「銀賞」を受賞しました。	200,000円

若手社員研修「石の上にも3年」セミナー開催

2019年4月23日

3回目となった若手社員研修「石の上にも3年」セミナー(常盤大学同窓会後援)が2018年9月20日に、ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸にて開催されました。この研修は、全国大学実務教育協会常盤大学部会(巨木ゆみ教授、菅田浩一郎准教授、森本俊助教)が主催し、地域で働く入社数年の若手社員と入社10年くらいの先輩社員がグループワークを通して社会人としての向上心や継続力を図ることを目的としています。今回は学外の会場で参加費1人5,000円(卒業生は1,000円)になりましたが、企業や自治体職員の卒業生も含めて26名の参加がありました。

第1部は、講演「若手社員の定着に向けて」常盤大学の取り組みとその背景、第2部がワールドカフェ方式のグループ・ディスカッションとなり、若手社員の失敗談や悩みに対して、先輩社員の経験からスキルや考え方をアドバイスするなど、活発な意見交換があり、地域のネットワークづくりにも繋がっています。



セミナーの様子

編集後記

元号が平成から令和に変わった。改元のタイミングに合わせて各所で盛り上がる様子が報道されていた。皆さんは改元のタイミングをどのように迎えていたのだろうか。平成の時代を振り返ると30年間で社会は大きく変化した。特にIT関係の進歩はものすごいものを感じる。平成を迎えた当時はまだポケベルと公衆電話の時代だった。気が付けばPHS、携帯電話を経て、スマホになった。PCも劇的に変化した。通常性能のデスクトップPCの本体だけで30万円近くしていたものだ。それと比較するといまでは、3分の1以下の価格で購入できる。また性能に関しては、雲泥の差である。当時のPCの各部品に係る性能表示は、単位が違う。当時主流のフロッピーディスクは、1.44MB。現在では考えられない容量の小ささだ。これからの令和の時代はどんな進歩が待っているのだろうか。AI、ロボット開発により、これまで人がかかっていた仕事の形態が大きく変化し、人となる仕事も出てくることだろうか。現在は、人手不足と言われている。しかしAI、ロボット技術の活用が一般化されたとき、現在人材が求められている多くの職場において、人は不要になっていくのだろうか。大学教育においては、これから迎える社会に対応できる人材の養成が求められているのだから。私個人としては、変化を続ける社会に過敏に反応する必要はないと思うものの、取り残されたいように対応していかたい。